

平成28年度 事務事業評価シート

章	5	豊かな個性と人間性を育むまち
節	3	市民の個性ある文化活動と文化を育む
施策	II	文化の保存・継承
目標	文化財や郷土芸能などの文化遺産の積極的な保護と活用に取り組む。	

指標名	単位	基準値 H16	中間値 H21	実績値 H22	実績値 H23	実績値 H24	実績値 H25	実績値 H26	実績値 H27
指標① 歴史や文化講座の参加者数	人	1,047	1,021	1,237	1,035	1,287	1,023	1,086	1,055
指標② 歴史文化施設（郷土資料館・埋蔵文化施設等）入館者数	人	3,400	4,562	5,491	4,926	4,975	5,108	5,490	5,016

施策コード	施策の基本的な方向	主要な施策	具体的内容
1-①	1 歴史の伝承と活用	① 社会教育施設の充実と有効活用	・登別市に残された先史から現代に至るまでの歴史や文化を学ぶことのできる郷土資料館で展示や歴史学習の充実を図ります。 ・観音館山の歴史をネイチャーセンターで伝えるなど、既存施設の有効利用と維持補修に努めます。 ・遺跡(埋蔵文化財)について学ぶことのできるのぼりべつ文化交流館で展示や学習の充実を図ります。
1-②	1 歴史の伝承と活用	② 埋蔵文化財の保管、展示施設の整備と学習会の開催	・埋蔵文化財出土品を適切に保管、展示し、児童・生徒や市民が体験学習できる施設の整備を進めます。 ・市内の埋蔵文化財等について調査・研究を進めるとともに出前講座などの学習会等を開催して子どもたちや市民が登別市の歴史を学べる機会を拡充し、周知を図ります。 ・郷土史関係者との連携や、デジタル化等による資料の保存を図ります。
1-③	1 歴史の伝承と活用	③ 地域文化や民俗芸能に触れる機会の支援	・地域文化を学ぶ機会を提供するとともに、地区の歴史を知る方との懇談会等を開催し地区の歴史を伝承します。 ・子どもたちが学校や地域で継続的に民俗芸能に触れる機会の取組を支援するとともに、民俗芸能を継承するための映像保存を進めます。
1-④	1 歴史の伝承と活用	④ 温泉の歴史、文化を活用した事業	・観光協会や温泉資源の学術研究を行う大学などの研究機関との連携を図り、温泉の歴史や文化を活用した事業の展開を進めます。 ・情報通信技術などを積極的に利用して、国内外への情報発信に努めます。
2-①	2 アイヌ文化の振興	① アイヌ文化に関する調査研究、記録の保存	・アイヌがこの地で培った自然観や食などの生活文化、また、アイヌ語地名や遺跡などを将来にわたって伝承するため、各種活動団体と協力し、調査研究、記録保存を進めます。
2-②	2 アイヌ文化の振興	② 伝統芸能、工芸に触れる機会の充実	・アイヌ文化の普及を図るため、市民が伝統的な芸能や工芸、口承文芸などを学ぶ機会を充実します。
2-③	2 アイヌ文化の振興	③ 市民講座の開催、小、中学校への情報提供	・市民がアイヌの文化と歴史を総合的に学ぶことができる市民講座などを開催するとともに、小、中学校へ情報提供を行い、理解を深めます。

NO	施策	事業名【事務事業コード】	部名及びグループ名	開始年度	終了年度	事業区分	会計種別	大型事業推進プラン掲載事業	Plan・Do														Check			Action								
									事業概要				事業の成果、目標							各年度の決算額、当該年度の予算額、今後の予算案【単位：千円】						第2期基本計画第3次実施計画期間(H24～H27)及び平成28年度における事業内容の変更・改善等の状況	評価	評価の判断理由、特記事項など(妥当性、有効性、効率性、成果)	今後の事業の方向性【H29以降】					
									事業の目的	年度	対象者等 ※ハード事業の場合は、施設名を記載	事業の内容	根拠法令、条例、要綱等	指標名	単位	H26実績	H27実績	H28目標	H29目標	H30目標	H31目標	名称	H26決算	H27決算	H28予算					H29予算案	H30予算案	H31予算案		
1	1-①	郷土資料館運営管理経費 53211001	教育委員会 社会教育G	S56	-	ソフト	一般会計		郷土に関する資料を市民に供することにより、ふるさと登別を愛する心を育てることを目的とする。	H26	郷土資料館利用者	郷土の歴史、民俗、産業、文化に関する資料を収集、保管、展示する郷土資料館の運営管理を行った。 【収集資料】：寄贈11件(129点) 【特別展】：4回 【企画展】：3回 【イベント】：わんぱくサムライ体験 【その他】：常設展示室の一部展示替え	郷土資料館条例施行規則	入館者数	人	3,643	3,437	3,500	3,500	3,500	3,500	国庫支出金								H26以前	平成26年度は宮城県白石市との歴史的つながり、本市に縁の深いアイヌ語地名学者の特別展を実施するなどして、郷土の歴史の普及啓発に努めた。	維持	登別市の貴重な歴史資料を収集・保存・展示する施設であるため、多くの経費や労力を要するが、市民にとっては郷土の歴史を知り、ふるさと登別を愛する心を育てることのできる場であり、市外の方には所蔵資料を通して登別市の歴史や魅力に触れることのできる場であることから、今後も継続的に事業を実施していく必要がある。	郷土に関する資料を市民に供し、ふるさと登別を愛する心を育てるため、今後も継続して郷土に関する資料の収集、保管、展示を行うとともに、魅力ある博物館作りのため常設展示の一部入れ替えや特別展の開催等に努める。
H27	上記のとおり	上記のとおり 【収集資料】：寄贈10件(1,140点)、購入4点、入手5点 【特別展】：2回 【企画展】：3回 【イベント】：わんぱくサムライ体験 【その他】：常設展示室の一部展示替え、SLG養成講座、敷地内樹木風倒防止	上記のとおり									地方債											H27	事業実施中に不断の事務改善を検討・実施しておりますが、事業内容に変更はありません。										
H28	上記のとおり	上記のとおり実施中 【収集資料】：0件(平成28年4月30日現在) 【特別展】：2回(予定) 【企画展】：3回(予定) 【イベント】：わんぱくサムライ体験 【その他】：常設展示室の一部展示替え	上記のとおり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	一般財源	1,827	2,131	2,007	2,292	1,887	1,887							H28	上記のとおり							
2	1-①	文化伝承館運営管理経費 53211002	教育委員会 社会教育G	H8	-	ソフト	一般会計		郷土の歴史や文化を伝承することにより、市民の教育・文化の向上を図ることを目的とする。	H26	文化伝承館利用者	文化伝承館を運営し、郷土資料館ボランティアグループSLGの協力を得ながら郷土の歴史や文化に関する学習会等を開催した。 【体験事業】17回	登別市文化伝承館条例、登別市文化伝承館条例施行規則	体験事業参加者	人	242	256	250	250	250	250	国庫支出金								H26以前	体験事業の内容を、実施する郷土資料館ボランティアグループSLGと検討し、新たな体験事業に改めるなどして実施した。	維持	布ぞうり作り、べこもち・らぐがん作りなどの体験を通して、市民が郷土の歴史や文化に触れる機会を提供することは、市民の教育・文化の向上に繋がることから、今後も継続的に事業を実施していくことが相当である。	
H27	上記のとおり	上記のとおり 【体験事業】17回	上記のとおり										地方債													H27	事業実施中に不断の事務改善を検討・実施しておりますが、事業内容に変更はありません。							
H28	上記のとおり	上記のとおり実施中 【体験事業】16回(予定)	上記のとおり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	一般財源	211	192	231	259	259	259								H28	上記のとおり						

